

第 33 回 荒川太郎右衛門地区自然再生協議会 議事要旨

●平成 25 年 3 月 3 日(日) 10:00～12:00、上尾市文化センター

【議事結果】

- 管理目標ワーキングより「平成 25 年度以降の自然再生工事」、生態系モニタリング専門委員会より「平成 25 年度のモニタリング計画」、運営委員会より「協議会設置要綱等の改正」、事務局より「今後のスケジュール」が提案され、了承された。
- 管理目標ワーキングより「管理体制の今後の検討」を平成 25 年度に進めていくことが提案され、了承された。

【主な議事内容】

◎報告事項

- 第 32 回荒川太郎右衛門地区自然再生協議会議事要旨の説明
(質疑応答無し)

●管理目標ワーキング活動報告

- ・ 前回協議会以降の活動として、工事への立ち会い、工事見学会を報告した。
- ・ 河畔林について、管理を試行しながら検討を継続することを報告した。
- ・ 「協力体制の仕組み作り」の検討状況として、企業との協力や資金確保に向けた検討組織作りの必要性、広報 WG との連携などが話題となっていることを報告した。
- ・ 「タケ類については拡大しないよう人為的にコントロールが可能と考えられる」としている意味はどのようなものか。
 - 人の営みの結果、タケ類がある量以上に増えないようにされてきたという歴史を考えると、自然再生地域で人が入らないようにしたときにそこで起こることの結果も事業の中の一部であると考えべきであり、拡大の速度が速いところに関しては駆除も考えることが今後の課題である。
 - 三又沼ビオトープでもタケ類の管理をどうするか議論している。繁茂拡大は問題であるが、このような場所を利用する鳥類もいるためである。あちらの取り組みも参考にしてもらえと思う。

●生態系モニタリング専門委員会活動報告

- ・ 前回協議会以降の活動として、モニタリング結果の確認、ハンノキ育成試験地でのつる性草本除去を報告した。
- ・ 重要種の凡例については、何年度版のレッドリストに基づいているか明記して欲しい。
- ・ 移植したハンノキの枯死した個体については、どのような状態だったか明記して欲しい。
- ・ 菅間委員による上池のモトクロス場跡地の掘削土を撒き出した場所のモニタリング実施状況として、掘削部斜面には先駆性の外来種が多く、下に池があったところとその周辺の

低いところは、上池の撒き出した土によって県内でも希に見るような興味深い植物が出て
いることが報告された。

●広報ワーキング活動報告

- ・ 前回協議会以降の活動として、イベントの実施、イメージキャラクターの選定、HP素案の作成を報告した。
- ・ 次年度の春イベント実行委員会が3月5日立ち上げ予定であることを報告した。
- ・ HPの公開に向けた検討を行うため、協議会委員へ素案ページのアドレスをお知らせするので、5月までに意見を事務局に寄せてもらうよう依頼した。
- ・ イメージキャラクターの名称は「たろえもん」になっているようだが、歴史的に「たろうえもん」が正しいのではないか。
→ その点の議論もワーキングで行ったが、応募者の「呼びやすいように縮めた」という思いを尊重し、キャラクターの名称としては歴史的名称とは別物として原案どおりとすることになった。なお、吹き出しで表示された「たろえもん」の文字の部分は、付けない状態での使用も可としている。

◎議事事項

●平成 25 年度以降の自然再生工事

- ・ 管理目標ワーキングより「平成 25 年度以降の自然再生工事」として、上池のモトクロス場跡地の湿地化を進めること、図面に描かれた形を基本に工事を進めてもらい、委員による現地指導で詳細な凹凸を形成してもらう方針が提案された。また、実施者である荒川上流河川事務所より、これらの工事範囲は予算の確保状況により変動することが説明された。
→ 了承された。
- ・ 造園の分野では詳細なコンターラインを入れた図面を作成して施工するのが普通であり、掘削範囲の中での池の配置などを含めた設計も可能ではないか。
- ・ 掘削においてはコンクリート殻などの廃棄物が出てくることが予想されるが、丸太のようなものであればそのまま施工範囲に設置するような処置でも良いと思う。

●平成 25 年度のモニタリング計画

- ・ 生態系モニタリング専門委員会より「平成 25 年度のモニタリング計画」が提案された。
→ 了承された。

●協議会設置要綱等の改正

- ・ 運営委員会より協議会設置要綱に示された委員の任期を2年から5年に変更すること、関連した細目を変更すること（任期を長くするため、委員の途中応募・辞任をしやすくする）、実態にあわない細目（公開に関する記述）が提案された。
→ 了承された。
- ・ 学生が参画しやすくするためには、途中応募・辞任をしやすくしてもらうのは良い。

- 個人の委員の場合は桶川市・川島町・上尾市の在住・在勤が条件であり、団体の場合は代表者1名の参加が条件である。学生の参加については、委員への応募以外の枠組みを設けていく方が良い。
- 若い人が活動に参加しやすくすることは必要である。
- ・ 協議会への参画がしやすくなることで「意見表明」だけをする人が増えると活動が遅くなるため、会議の進行についてはファシリテーターによって合意形成を進めてもらえるといいので、事務局でそのような体制を組めるか検討して欲しい。
- 協議会の進め方については運営委員会と事務局で検討する。
- ・ 組織はシンプルな方が良いので、運営委員会が決定・実行を担っていないのであれば、現事務局があれば運営委員会は不要ではないか。
- 本来運営委員会が担うべき機能を現事務局が負っているのは確かであるが、国だけでなく地域の活動者が一緒に協議会を運営していくという形を持っていることは必要である。
- ・ 生態系モニタリング専門委員会は希少種の位置情報を取り扱うので、「非公開とすることができる」ことで良い。
- ・ 事務局提案の「運営委員会は現在の定員7名から定数制限無しへの変更」「協議会開催曜日は現在の土日祝日原則から平日夕刻を加えた形への変更」を了承する。

●今後のスケジュール

- ・ 事務局より平成25年度の概ねのスケジュールとして、協議会は3回程度、各WG・委員会は随時開催・活動していくこと、中でも広報WGは5月頃のイベントとHPの7月頃の開催に向けた具体的な活動を行っていくことと今後の活動の中で各種助成金を活用していく方針が提案された。
- 了承された。

●管理体制の今後の検討

- ・ 企業との協力や資金確保に向けた組織体制については管理目標ワーキングで検討を進め、平成25年度中も含めて近い将来に本項目に特化したワーキングを立ち上げ、いずれ専門委員会に格上げしていく方向性が管理目標ワーキングより提案された。
- 了承された。
- ・ 石西礮湖では行政も参加する協議会自体ではNPO法人化が難しいということで、協議会の中に基金とその運用委員会を設けた。現在は基金をNPO法人化申請中である。また、募金については、website経由の寄付金サイトにプロジェクトを登録し、この目的に寄付を使ってほしいという寄付者からの定期的な寄付の自動引き落とし化のメニューも採用している。
- ・ 参考事例として示された石西礮湖や阿蘇草原はもともと知名度が高いが、太郎右衛門地区はそのような条件には無い。一方で東京に近いという立地上の利点があり、これを上手く活かしていきたい。
- ・ おそらくそのまま参照できるような「上手くいっている」事例というものは無く、太郎右衛

門地区独自の方法を見つけて作り上げるしかないと思う。

- 工事には予算がつくようだが、土地の買収には予算がつかないのか。
 - 事業計画で必要な土地は買収してきており、今の時点ではそのために必要な部分は終わったという位置づけになっている。今後については社会情勢にもよるが、必要とされる部分があるならその時に対応を検討したい。
 - 人間がかかわってこの地域の自然というのは成り立っていた部分が多いので、放置しておくことによって劣化していく自然もあるし、放置しておいてよくなったというのもある。民地に希少な植物が生えていたりするので、全体的に考えていく上では、公的にシステムをつくるとか公有地化するとか、そういう方向も出していないといけない

●その他

- 協議会の開催日については、会長等の参加必須の方々の出席可能な日を候補として絞った上で、その中で参加者が多い日を設定する方法が良いのではないかと。
 - 事務局でより良い方法を検討する。
- 協議会の資料の分量が多くなっているので、メール送信で良い人には紙でなくデータをお送りすることで経費節減になるのではないかと。
 - 事務局でより良い方法を検討する。

以上